



平成28年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年11月9日

上場会社名 日本マクドナルドホールディングス株式会社

上場取引所 東

コード番号 2702 URL <http://www.mcd-holdings.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長兼最高経営責任者(C E O) (氏名) サラ L カサノバ

問合せ先責任者 (役職名) IR統括責任者 (氏名) 中 澤 啓 二

TEL 03-6911-6000

四半期報告書提出予定日 平成28年11月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年12月期第3四半期の連結業績(平成28年1月1日～平成28年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年12月期第3四半期	165,252	20.1	3,805	—	3,445	—	3,209	—
27年12月期第3四半期	137,547	△20.1	△20,795	—	△22,304	—	△29,279	—

(注) 包括利益 28年12月期第3四半期 3,016百万円 (—%) 27年12月期第3四半期 △29,460百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年12月期第3四半期	24.14	—
27年12月期第3四半期	△220.21	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年12月期第3四半期	174,018	107,881	61.9
27年12月期	178,868	108,853	60.8

(参考) 自己資本 28年12月期第3四半期 107,692百万円 27年12月期 108,666百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年12月期	—	0.00	—	30.00	30.00
28年12月期	—	0.00	—	—	—
28年12月期(予想)	—	—	—	30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年12月期の連結業績予想(平成28年1月1日～平成28年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	225,000	18.8	5,000	—	4,600	—	3,800	28.58

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	28年12月期3Q	132,960,000 株	27年12月期	132,960,000 株
② 期末自己株式数	28年12月期3Q	869 株	27年12月期	869 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	28年12月期3Q	132,959,131 株	27年12月期3Q	132,959,131 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表のレビュー手続は、終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(経営成績に関する定性的情報)

当第3四半期連結累計期間は、既存店売上が4四半期連続で対前年比プラスとなる21.1%の増加となり、システムワイドセールスは3,208億92百万円(対前年同期比469億77百万円増加)、売上高は1,652億52百万円(対前年同期比277億5百万円増加)となりました。経常利益は、売上高の回復や店舗収益性の改善等により34億45百万円(前年同期は経常損失223億4百万円、対前年同期比257億50百万円増加)、親会社株主に帰属する四半期純利益は32億9百万円(前年同期は親会社に帰属する四半期純損失292億79百万円、対前年同期比324億88百万円増加)となりました。

(注) 1. 既存店売上高とは、少なくとも13ヶ月以上開店している店舗の合計売上高です。

2. システムワイドセールスとは、直営店舗とフランチャイズ店舗の合計売上高であり、連結損益計算書に記載されている売上高と一致しません。

3. 当社グループの事業はハンバーガーレストラン事業単一であるため、セグメント情報に関連付けた記載を行っておりません。

(事業戦略に関する定性的情報)

当第3四半期連結累計期間は、食の品質と安全に関する継続した取り組みとともに、中長期の成長に向けた4つの柱(「よりお客様にフォーカスしたアクション」「店舗投資の加速」「地域に特化したビジネスモデル」「コストと資源効率の改善」)からなるビジネスリカバリープランに沿って、お客様に最高の店舗体験をご提供するための以下の取り組みを実施しました。

<よりお客様にフォーカスしたアクション>

お客様を第一に考え、お客様の目に見える変化をご提供することに注力し、メニュー、パリュー、お客様とのつながりを強化するための様々な活動を実施しました。

(メニュー)

新コンセプト「BurgerLove」の立ち上げ

多くのお客様にマクドナルドのバーガーを楽しんでいただきたいという想い、バーガー作りに対するこだわりや情熱、お客様のバーガー愛を大切にする「BurgerLove」のコンセプトを立ち上げ、魅力的な商品の開発と、お客様とのコミュニケーションを展開しました。期間限定で下記の商品を販売し、それぞれのメニューの美味しさに大変ご好評いただきました。

- 4月 「ビッグマック」をサイズアップした「グランド ビッグマック」「ギガ ビッグマック」、バーガーのおいしさを追求した自信作「クラブハウスバーガー」
- 5月 ハワイ州観光局の公認をいただいた「ロコモコバーガー」
- 7月 日本マクドナルド45周年を記念し、古き良きアメリカの味をイメージした「1955 スモーキーアメリカ」、日本のおいしさを追求した「1971 炙(あぶ)り醤油ジャパン」
- 8月 オリンピックのワールドワイドスポンサー/オフィシャルレストランとして「必勝」をテーマとした「必勝バーガー」(ビーフ&パイン/チキン&トマト)
- 9月 発売25周年となった人気の定番季節メニュー「月見バーガー」、月見シリーズの新商品「満月チーズ月見」

新ブランド「By McSWEETS」の展開

幅広い世代のお客様に、“いつでも気軽に楽しめるスイーツ”を提案する新しいスイーツブランド「By McSWEETS」を立ち上げ、既存商品に加え、国内の地域名産食材を使った下記の商品を期間限定でお楽しみいただきました。

- 2月 国産はちみつと瀬戸内レモンの果汁を使用した「マックシェイクはちみつレモン」
- 3月 北海道産ミルクを使用した「北海道ミルクパイ」、北海道産あずきと宇治抹茶を使用した「マックフルーリー宇治抹茶&あずき」
- 5月 愛媛県産の“甘夏”を使用した「マックシェイク甘夏みかん」
- 6月 宮崎県産の“日向夏(ひゅうがなつ)”を使用した「マックフルーリー日向夏チーズケーキ」、沖縄県産の“パイナップル”を使用した「マックシェイク 沖縄パイナップル」
- 7月 人気の期間限定メニュー「マックシェイク ヨーグルト味」

- 8月 国産桃を使用した「マックシェイク もも」、「バナナタルト」の味わいをイメージした「マックフルーリーバナナタルト」
- 9月 和歌山県産の桃“白鳳”を使用した「三角ももクリームパイ」、「森永ミルクキャラメル」とコラボレーションした「マックシェイク 森永ミルクキャラメル」

(バリュー)

「バリューランチ」バリューの拡充

昨年10月に販売を開始した、100円のデザート・ドリンク、150円のサイドメニュー、200円のバーガーマニューをお客様のご予算とニーズに合わせてお楽しみいただける「おてごろマック」に加えて、本年9月よりお客様のご予算とニーズにさらにお応えするため、平日のランチタイム限定で人気の定番メニューのセットをお得にご提供する「バリューランチ」を開始し、大変ご好評いただいております。

(お客様とのつながり)

新しいワクワクする期間限定商品の販売

新商品の開発や発売時にはお客様とのつながりを大切にし、お客様と一緒に楽しみいただける参加型のプロモーションや驚きのあるフードニュースで、ワクワク感を盛り上げ、マクドナルドらしい楽しさとパッションをお伝えしました。

1月には新鮮で驚きのある組合せの「マックチョコポテト」、2月には正式名称を公募した「北のいいとこ牛(ぎゅ)っとバーガー」、6月には15種類の定番バーガーに「ハラペーニョ」「クリームチーズソース」「スモークベーコン」の3種のトッピングを加えアレンジできる「マックの裏メニュー」の販売や、「怪盗ナゲッツ」が登場する「チキンマックナゲッツ」の新ソース「クリーミーチーズソース」「フルーツカレーソース」のプロモーションを実施しました。

また、マクドナルドの公式アプリは9月末時点で約2,700万件のダウンロードをいただき、最も利用されているアプリの一つとなりました。お得なクーポンに加え、お客様からご要望が多いメニュー情報、栄養・原材料情報もアプリからご確認いただけます。

<店舗投資の加速>

最高の店舗体験と目に見える変化を一人でも多くのお客様に感じていただくために、平成30年度末までに90%以上の店舗をモダン化する計画を進めており、既存店舗の改装にリソースを優先的に振り向けております。当第3四半期連結累計期間は、フードコートやモールにある店舗を含めて333店舗の改装と4店舗のリビルドを実施しました。ご注文と受け渡し場所を分け、お客様へのサービスを強化するデュアルポイントサービスは、426店舗への導入を実施しました。

区分	前連結会計 年度末	新規出店	閉店	区分移行		当第3四半期 連結累計期間末
				増加	減少	
直営店舗数	954店	2	△17	4	△4	939店
フランチャイズ店舗数	2,002店	1	△30	4	△4	1,973店
合計店舗数	2,956店	3	△47	8	△8	2,912店

<地域に特化したビジネスモデル>

「お客様により近い位置での経営の実現」を目的に昨年6月に導入した日本を3つのエリア(東日本、中日本、西日本)に分けた地区本部制のもと、スポーツイベントや行政と協力して交通安全イベントを開催するなど、各地域・店舗でコミュニティと協力して、地域に密着した、より地域の皆様に愛される店舗作りへの取り組みを活発に実施しています。

また、これらの取り組みを通じて、フランチャイズオーナーや店舗へのサポート体制も強化されており、QSC(Quality, Service, Cleanliness)の向上とビジネスの成長にもつながっています。

<コストと資源効率の改善>

戦略的閉店や一般管理費の最適化等により収益性は着実に改善しています。今後も長期的なビジネスの成長に投資を集中するため、リソースの最適な配分や抜本的なコストの構造の見直しを継続的に実施してまいります。

ビジネスリカバリープランに基づき、お客様を第一に考えて実施した様々な施策の相乗効果により、ビジネスは堅調に回復基調を示しております。驚きのある新しい期間限定商品や季節の定番メニューなどお客様に魅力的で美味しいと感じていただけるメニューを、お得感のある価格でお届けし、モダンで心地よい店舗環境と最高のQ S C (Quality, Service, Cleanliness) を提供してまいります。そして、お客様の総合的な店舗体験の質を高め、よりお客様と地域に密着した活動を通じて、「お客様と心でつながる、モダン・バーガー・レストラン」を目指してまいります。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の流動資産は315億88百万円となり、前連結会計年度末に比べ29億36百万円の減少となりました。これは、現金及び預金が18億44百万円、その他流動資産が17億10百万円減少したことが主な要因です。

固定資産は1,424億29百万円となり、前連結会計年度末に比べ19億14百万円の減少となりました。これは、建物及び構築物を取得したこと等により有形固定資産が29億8百万円増加した一方、敷金及び保証金の回収等により投資その他の資産が42億23百万円減少したことが主な要因です。

流動負債は282億26百万円となり、前連結会計年度末に比べ132億58百万円の減少となりました。これは、短期借入金が50億円、未払金が75億96百万円、戦略的閉店に対する店舗閉鎖損失引当金が15億65百万円減少したことが主な要因です。

固定負債は379億10百万円となり、前連結会計年度末に比べ93億80百万円の増加となりました。これは、銀行借入れにより長期借入金が101億25百万円増加したことが主な要因です。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

昨年4月に策定したビジネスリカバリープランに基づく様々な施策の相乗効果により、売上高が堅調に増加していることから、平成28年12月期の連結業績予想を上方修正いたしました。詳細につきましては、本日開示の「平成28年12月期 通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日)等を、第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	20,388	18,543
売掛金	8,119	8,605
原材料及び貯蔵品	862	1,001
繰延税金資産	478	478
その他	4,711	3,000
貸倒引当金	△35	△41
流動資産合計	34,524	31,588
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	45,481	48,171
機械及び装置(純額)	3,915	3,952
工具、器具及び備品(純額)	2,334	2,569
土地	17,325	17,325
リース資産(純額)	2,874	2,160
建設仮勘定	479	1,138
有形固定資産合計	72,410	75,318
無形固定資産		
のれん	1,195	998
ソフトウェア	6,760	6,358
その他	693	694
無形固定資産合計	8,650	8,051
投資その他の資産		
投資有価証券	56	56
長期貸付金	9	9
長期繰延営業債権	10,116	9,965
退職給付に係る資産	6,773	6,415
繰延税金資産	224	212
敷金及び保証金	41,457	37,851
その他	8,634	8,546
貸倒引当金	△3,988	△3,995
投資その他の資産合計	63,283	59,060
固定資産合計	144,344	142,429
資産合計	178,868	174,018

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	303	19
短期借入金	5,000	—
1年内返済予定の長期借入金	2,500	2,500
リース債務	1,428	1,220
未払金	20,843	13,246
未払費用	4,502	4,337
未払法人税等	11	527
未払消費税等	—	2,379
賞与引当金	428	1,588
店舗閉鎖損失引当金	1,681	116
たな卸資産処分損失引当金	337	303
資産除去債務	453	2
その他	3,993	1,983
流動負債合計	41,485	28,226
固定負債		
長期借入金	18,125	28,250
リース債務	2,428	1,696
繰延税金負債	1,351	1,195
再評価に係る繰延税金負債	311	291
賞与引当金	293	414
役員賞与引当金	30	54
役員退職慰労引当金	54	71
退職給付に係る負債	1,474	1,449
資産除去債務	4,149	4,168
その他	312	317
固定負債合計	28,530	37,910
負債合計	70,015	66,136
純資産の部		
株主資本		
資本金	24,113	24,113
資本剰余金	42,124	42,124
利益剰余金	44,955	44,176
自己株式	△1	△1
株主資本合計	111,191	110,412
その他の包括利益累計額		
土地再評価差額金	△4,261	△4,242
退職給付に係る調整累計額	1,736	1,521
その他の包括利益累計額合計	△2,525	△2,720
非支配株主持分	187	188
純資産合計	108,853	107,881
負債純資産合計	178,868	174,018

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年9月30日)
売上高	137,547	165,252
売上原価	140,240	143,446
売上総利益又は売上総損失(△)	△2,692	21,805
販売費及び一般管理費	18,102	17,999
営業利益又は営業損失(△)	△20,795	3,805
営業外収益		
受取利息	83	75
受取補償金	74	14
受取保険金	32	73
その他	104	207
営業外収益合計	295	371
営業外費用		
支払利息	148	189
貸倒引当金繰入額	800	99
店舗用固定資産除却損	479	279
賃貸借契約解約違約金	18	11
その他	357	150
営業外費用合計	1,804	730
経常利益又は経常損失(△)	△22,304	3,445
特別利益		
店舗閉鎖損失引当金戻入額	—	478
特別利益合計	—	478
特別損失		
固定資産売却損	88	—
固定資産除却損	101	247
減損損失	3,516	—
店舗閉鎖損失	727	—
店舗閉鎖損失引当金繰入額	1,836	—
早期退職制度関連費用	550	—
特別損失合計	6,821	247
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	△29,125	3,677
法人税等	148	466
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△29,274	3,211
非支配株主に帰属する四半期純利益	4	1
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△29,279	3,209

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△29,274	3,211
その他の包括利益		
土地再評価差額金	36	19
退職給付に係る調整額	△222	△214
その他の包括利益合計	△186	△194
四半期包括利益	△29,460	3,016
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△29,465	3,015
非支配株主に係る四半期包括利益	4	1

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社グループの事業は、ハンバーガーレストラン事業単一であるため、セグメント情報の記載を省略しております。